橋本伝兵衛

山田悦郎

A 結論
(1) 橋本伝兵衛は大坂の算者である。
(2) 延宝7年（1679）及び元禄9年（1696）大坂川崎に住す。
(3) 元禄9年（1696）4月には生存していた。

B 資料
(1) 境中 雞波鴨 全
(2) 雞波鴨
(3) 撰州 雞波鴨 上巻
(4) 大阪府立図書館報「にわわつ」53

C 資料の解説
(1) 境中 雞波鴨 全
延宝7年3月出版された大坂の地誌。
その中に算者として、
川崎 橋本伝兵衛
今橋筋 算助

八問屋 又兵衛
以上3名の氏名あり。

(2) 雞波鴨（にわわつ）
延宝7年出版、雞波鴨におくること4ヶ月であるから7月に出版される。
根本仏師はこの出版書の中に名があるので川崎に住居し、生存していたと考えられるのである。

吉市算助正信は今後、より当時の生活を見ている。
根本仏師居安も、彼の3名は知らなかった。

(1) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書

(3) 宮中の元熙9年3月に足摺

(4) 大阪府立図書館の「根本仏師」883
この中には、仏師の資料にふたび、大阪市立図書館で
大阪府立図書館、多治比縣夫氏が書いている。

 générageは元熙9年4月出版で、元熙9年当時の多くの人物を伝へ、室町幕

(2) その他の著者
(1) 吉市算助正信は寺所に住っているがす
(2) 根本仏師の資料にふたび、大阪市立図書
幕末のころ、神戸に「四面労務所」にも築
立する高松を和泉をさめた学者がいた。町
の数学者史家や製造業者たちは、この地
で研究を進め、実用的な計器を考案するため
の努力をしていた。

○道路元祖のとこと

仏教の伝来と元祖のとこと西周に道路元
祖と称されたものが伝えられていない。

伊丹道路元祖は大阪府東北郡にあり
る、大阪は海田へ直通する京都に通じる
東条道である。仏教の創始者である仏か
がこの路を踏み出したという伝説がある。

道路元祖は高さ三级、六十番の標柱で表
われる。東京の道路元祖と並びに建立年月が
知られているだけである。

切抜帖

1868年8月27日・神戸新聞

幕末の神戸に和商の大名が駐屯
小規模なスラスラ「神戸通商

「幕府」に残る業績
数学史家学会の発案、現存の子孫も初耳

来外內人 優小樹 合同」の記述。

と今日の旗を舞うと
「ルート305 マイナス2」×10 = 23.5

までもって三閣に述べられた「松原、同
鉄道茨城米宮内町安祥寺、山崎市等間の
道路」の名も見られが、この二人は鉄道を
造られることである。

デンマークの国にこのような高架橋が
どうしてあったかについて発表された。駐在
秀吉が国大名の附（以下）を調べた所によ
ると、鉄道橋梁は重要であるが、鉄道の研究
者から鉄道が重視されることは、現在の
鉄道建設の計画にまで全国の鉄道家たちが
きき離れ、大きいにその能力を発揮していた
いう。

全国に残在している鉄橋は約500箇所、そ
のような規模の鉄道橋梁は、現在の鉄道を支
える重要な役割を果たし、鉄道橋梁の建設
が進退をめぐる鉄道の発展、鉄道は鉄道の
発展と言えば、鉄道の発展を支える重要な役
割を果たした。神戸史学会の発表や盛岡市は「西
面の町」に同じように鉄道の発展を支えると
考えられ、鉄道の発展は鉄道の発展を支える
重要な役割を果たした。
日本歴史学会近畿支部
創立5周年を迎えるに当たって

昭和48年11月13日仙台から平山師先生、東京から下平弘先生をお迎えして、近畿支部を創設してから早くも5周年にたろうと宣言しています。当支部の事業として、研究発表会、見学会、本部及び各の史学研究団体との連絡、研究発表の出版、研究発表等を目的に、今日までいろいろな行事が該当されてきました。そして会員の皆様のご協力によるものと存じます。

そこで5周年の記念行事として、500年度中には単位ワークにふさわしい行事をしようと考え、巡禮委員会で決定通り決定されましたのでお知らせ申し上げます。

1. 京都八坂神社の参拝を復元すること。
この参拝は、現存中全日本で4番目に古いもので空海4年（1069）長谷川師範によって崇拝されたもので、近畿支部長稲葉秀夫先生が独自に拓本をとられ、公募の東条文を解釈されたものです。現在では頑張が失われ、みなくなったが、新刊では全文を読むところは不可能になっています。

2. 福島県の講演に参加すること。
大阪市天王寺区南南町5-8 伝元寺（現在コンドルドレムーサがいる東京）東南石段階に面して、藤原寺の木村時明師の配慮により、教頭移転安置が行なわれました。

一般の人々は表通りざるだけれども枝間の真実も無い等しい状態では、その根拠を明らかにして、大阪の歴史で福島と呼ばれる歴史家が解釈した事を、一体の多くの人に知ってもらいたいと思います。

(3) 筆者をたずねて東州旅行
来年8月中旬を目撃に、福島、山形、秋田方面への行方の方々で、5泊4日目で旅の的ど、都道をはさんで旅行をしてみて、とおっしゃっています。予算、コース等は皆さんが相談して後日決定したいと思っておりますので好機の

(4) その他新装のふさわしい記念行事がございますと、是非皆ご興興をお待ちしています。

(田中直雄)
橋本伝兵衛の手代について
山田悦郎

平山書博士著「関係」の増補訂正の中に、
淡路の広田家に伝わった「広田家文書」があ
り、京都学士院に寄贈されている由であるが、
この広田家文書は数数十冊あり、その中の一冊、
数学者関常久は「日本にて天元之祖は大坂川崎
之手代橋本伝兵衛也。著作家によって也」と
書かれている。

大坂川崎の手代とは何かという疑問が起こ
ってくる。大阪商人の間では手代というと丁
稚と書類の間に位置した人であるが、橋本伝
兵衛の手代は、徳川時代に郡代、代官等の配
下に編属して、収税、他の諸務に従事した
人であったと思うのが正しいと思う。

何と云えば、延宝七年の國造記に橋本伝兵
衛のみが表記があり、他の算助、又兵衛など
は表記がされていないと云っても橋本伝
兵衛は十分の人であったと見ることが出来る。

大坂川崎（天満川崎とも云い現在の造幣局
の南側）の何という郡代又は代官の手代であ
ったかは不詳である。

村上書「江戸幕府の代官」によると、代
官には配下手代・手代などがあり、役向に
よって手代頭、賦手代、歳方役、書役、江戸
家老、江戸勘手代、中小姓などという呼び名
もあった。手付・手代やそのほかの代官所の
吏員は多くも代官所の属人で、幕府の役
人ではなかった。

はじめ手代は農民の中から適当なものを選
び、代官が自由に採用、罷免していたが、寛
政のころから別に手付が任ぜられるようにな
った。

手付の年俸は米三十俵、二人扶養を平均と
し、もし休戦になっても恩給に払うことが
出来たが、これに対して手代の方は大部分が
農民などの出身であるためか、本給はなく、
代官所の経費の中から支給された。享保10
年以後は普通の手代になると二十両五人扶持
となったが、かけ出しの手代になると四両
二人扶持くらいであった。

これを見ても、当時の出采が個人負担であ
るならば橋本伝兵衛が「古今算法記」を出版
することは困難であろうと考察され、門人、
の沢呂之がその出版を引き受けたと解す
るのもひとつの考え方と思う。

昭和50年会費納入について
昭和50年 会費（年額） ¥ 1,200

近藤支部創立5周年記念事業費 ¥ 1,200

上記合計 ¥ 2,400 を1月末日までに納入
下さいますようお願い申し上げます。

なお、記念事業につきご意見がございましたらご提案下さい。「和算」第9号は1
月下旬発行予定です。ご寄稿お待ちします。